

WORLD NEWS ベルギー&中国

SEAFOOD PROCESSING EUROPE 2010



ハンドリングロボット初出展・実演

レポーター 国際部 部長 谷村俊文

4月27日から29日まで開催された「ブラッセルシーフードショー(Seafood Processing Europe 2010)」、並びに5月6日から8日に開催されました「上海豆腐設備展示会」に出展いたしましたので併せてレポートいたします。

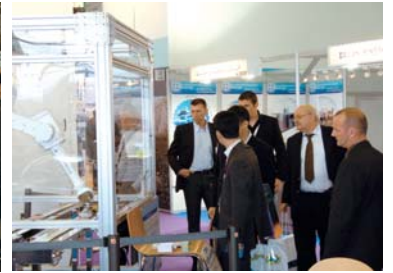
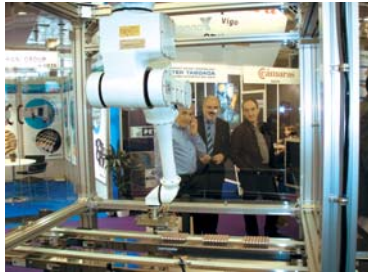
ブラッセルも今年で10年目となり、毎年何か新しい企画の考案で頭を悩ませますが、今年は安川電機様のご協力をいただきカニ棒用ハンドリングロボットのデモ機の実演・展示を行いました。

これはある本数で整列されたカニ棒ブロックをロボットのチャックで掴み包装機へ乗せ換える全自動化システムの一部です。ヨーロッパ、ロシアにおいても人件費の上昇は問題になっており、特にバルト3国、東欧ではEUへの加盟後、良い条件を求めてワーカーがヨーロッパへ流出し、人手確保もままならないようです。今回はそのような背景の下、多くのお客様へロボットによる包装工程の自動化をご提案できましたので、喜んで頂けたのではないかと思います。

また、今回特に会場で目を引いたのはリトアニアVICIUNAI社の製品アイテムの充実ぶりで、製品のバラエティーでは群を抜いていました。同社はSUSHIMI(スシミ)という新製品で賞を受賞されていましたが、ヨーロッパでは和風なネーミングがインパクトがあるようです。

それから今年はロシアからの来場者が少なく、金融危機が続いていることありますが、一時のロシア方面でのカニカマ新規参入ブームが終わりつつあるのかなと感じました。

ヨーロッパ、ロシア方面におきましても、今後も新製品提案、設備合理化でお役に立てればと思っております。



左からJTSのジュリアさん、国際部柳井係長、元ケラバックのベジート氏、設計部仲田部長

「寿し」+「スリミ」で「スシミ」という和風のネーミングにしている。でも、パッケージの箸が・・・?!



上海豆腐設備展示会
開催会場「上海光大会展中心」



2010 上海豆腐フェア

弊社としては中国で開催される展示会への出展は初めてということで、どれだけお客様がお越しいただけるか若干不安でしたが、多くのお客様にご来場頂き、大変有意義な展示会となりました。

中国の方々は情報収集に大変積極的で、質問があれば遠慮せず次々にお聞きになり、ブースの中へも入り込んで壁に展示してある機械パネルを食い入るような目で見つめておられました。また、印象的だったのが中国の機械メーカーが巨大なスペースを占めて出展していたことや日本製品のコピー機が堂々と展示してあったことです。ここ数年で設備メーカーが急速に成長した背景には中国豆腐製造メーカーの設備入れ替え時期と重なったことがあるようです。

日本のメーカーさんも多数出展されていましたが、我々も中国勢に負けずに、顧客とのコミュニケーションを一層強化し、日本の技術を堂々とアピールしなくてはと感じました。